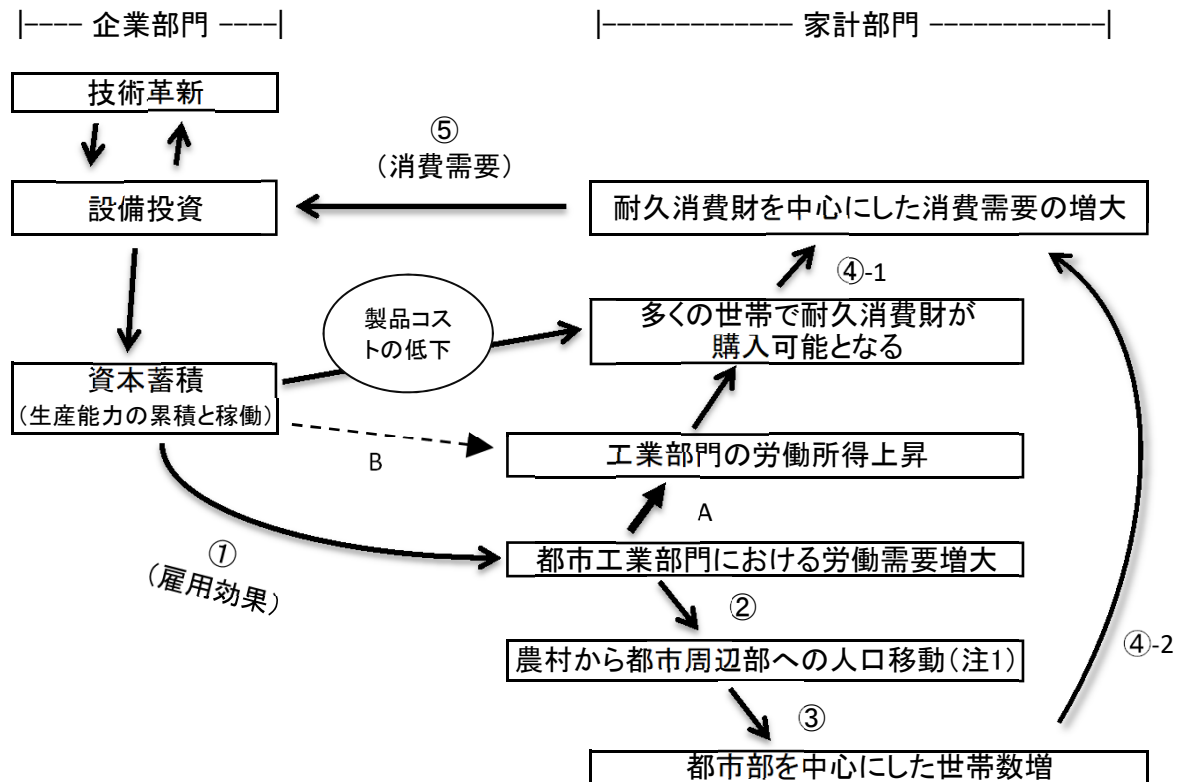


吉川による「高度成長のメカニズム」の再構成

(正の利潤原理)



吉川(1993)の「図2.3高度成長(1955-70年頃)のメカニズム」を企業部門と家計部門との関連として再構成したもの。①～⑤の線は同上図と同じ。

Aの線は筆者が加筆した。

Bの線は不要になる。

(注1) Lewisの過剰労働説unlimited supplies of labourに対応する。

南亮進(2002)『日本の経済発展第3版』211頁、219頁。